

用していく観点から、新市建設計画の年次計画の見直しも行わざるを得ないと考えています。

財政健全化に向けた今後の対応ですが、行政改革推進のための市町村計画、いわゆる集中改革プランを平成十八年度に策定する予定です。

基金の取り崩しに頼らない財政構造の確立に向けて、不斷の努力で行政改革に取り組んでいきます。

問 平成十八年度は骨格予算であり、政策的経費や新市建設計画に基づく事業は計上せず、原則として経常的経費の

ほか投資的経費だけで継続事業のみを計上するとあります。また、予算規模と事業内容はどうのくらいになるか。

問 平成十八年度における補正予算について、投資的予算是関して、事業計画はどのようになっているのか。

答 当初予算における投資的経費の継続事業については、八日市場駅南口広場整備事業のほか松山地先や川辺地先、今泉地先の道路改良事業、ふるさと農道整備事業などで約八億六千七百万円です。

また、今後の補正予算では、

塚間及び蕪里・川辺間の南北道路が主な事業の候補です。事業費や予算規模については、今後調整することになりますが、これらすべてを実施することは財政的に非常に困難です。

また、同時に合併特例債を活用した事業についても、財政事情を勘案しながら、新市の建設計画事業の実施年度の見直しをしなければならないと考えています。

林は、ゴミの不法投棄とボイ捨てが後を絶たない状況です。不法投棄の現状を見ると、産業廃棄物の不法投棄については、市民の関心が高くなつたことで、不法投棄監視員による監視の状況、通報体制を整備してきたことにより、産業廃棄物が不法に投棄されることは減少していますが、畠あるいはタイヤなどを休耕農地や荒廃した山林へゲリラ的に投棄することが増加している状況です。

一般的な廃棄物では、山間部、平坦部を問わず、河川、池、道路、空き地、保安林、砂浜などへの一般家庭からの家電ゴミやコンビニゴミなどのボイ捨てが後を絶たない状況です。

問 新市になつて、不法投棄をどのように把握しているか。

答 旧野栄町は海岸線も多く、不法投棄の場が多いように思われるが、旧八日市場市の分も含めて、現状はいかがか。

林は、ゴミの不法投棄とボイ捨てが後を絶たない状況です。不法投棄監視員、県・市職員によるパトロールや関係機関との連携強化をしながら、産業の廃棄物、一般の廃棄物を含めた不法投棄の早期発見と迅速な撤去処理に努めています。

また、警察との連携はできているのか。

答 不法投棄対策としては、

不法投棄監視員、県・市職員によるパトロールや関係機関との連携強化をしながら、産業の廃棄物、一般の廃棄物を含めた不法投棄の早期発見と迅速な撤去処理に努めています。

また、警察及び県との連携によりまして、不法行為者の特定と原因者による原状回復に努めていますが、行為者が特定できない場合には、職員や業務委託による撤去処理を行つておいたところです。

同時に、土地の所有者や使用者に対しても、適正な自己管理をお願いいたしますとともに、啓発用の看板の設置やパトロール、試験的な監視カメラの導入などの防止対策を実施しています。

市の中づくりの基本目標の一つであります「自然と共生し、快適なまちをつくる」という目標の実現に向け、豊かな自然環境を守るために、不法投棄させない環境対策を実施していきたいと考えています。

答 不法投棄監視員、県・市職員によるパトロールや関係機関との連携強化をしながら、産業の廃棄物、一般の廃棄物を含めた不法投棄の早期発見と迅速な撤去処理などを地域の安全部が七十四・一パーセントであります。

八日市場市が五十四・七パーセント、旧野栄町が五十一・二パーセントで、整備率的には、格差はないかと感じます。集落間の連絡道路の整備や通学道路整備などを地域の安全性・利便性の向上を目指し、計画的に進める所存です。

市の中づくりの基本目標の一つであります「自然と共生し、快適なまちをつくる」という認識を持つて農業に従事できるような環境をつくり上げることが必要と考えています。

答 従来の市、町の道路については、合併により新市に引き継がれ、新たに匝瑳市の市道として認定しました。

環境生活関係

市の中づくりの基本目標の一つであります「自然と共生し、快適なまちをつくる」という目標の実現に向け、豊かな自然環境を守るために、不法投棄させない環境対策を実施していきたいと考えています。

今後とも、関係機関、団体との連携を強化しながら、新市の中づくりの基本目標の一つであります「自然と共生し、快適なまちをつくる」という目標の実現に向け、豊かな自然環境を守るために、不法投棄させない環境対策を実施していきたいと考えています。

市の中づくりの基本目標の一つであります「自然と共生し、快適なまちをつくる」という認識を持つて農業に従事できるような環境をつくり上げることが必要と考えています。

財政健全化計画について

問 旧八日市場市においては、執行部が自ら提案した財政健全化計画を執行していました。

いろいろな観点から健全化を検討し、かなり成果があつたように思われる。

そこで、財政健全化のための計画を匝瑳市になつても新たに策定するのか。

答 新市においても健全化計画は必要です。

当面は、平成二十一年までを計画期間とする「集中改革プラン」により、財政の健全化に取り組んでいますが、団りながら、長期ビジョンに

消防署の分署の設置について考えては、消防組合の組織は、消防行政の管理運用をつかさどる

消防署本部と、消防活動の実践に当たり、一本署二分署かられており、本市には、旧八日

消防署によって構成され、确保され、今後、さらなる消防活動の充実が期待されるところです。

農業の現状と今後の課題

問 農産物の価格の低迷や国際ルールの厳しさなどによつて、今や日本の農業は大変な危機に直面していると思いま

す。

本市においても、基幹産業である農業の存続が危惧されるわけですが、市長は、当市の農業の現状をどのように認

識しているか。

答 本市においては、主要作物である米と併せて、全国有数の植木の产地です。

米について、食生活の変化による消費の減少、価格の低迷が続いている状況です。

消費の大拡大に向けた取り組みとして、地産地消を前面に打ち出し、消費者との対話を

呼びかけて対策を検討したいと考えています。

植木については、需要の低迷の中、植木組合においては、ヨーロッパなどの海外へ向けた販路拡大に努められています。

道路、下水道を含めて、旧八日市場市と旧野栄町でどのような格差があると認識しているか。

また、当面する格差の解消について、合併特例債が使える事業と使えない事業があります。

主要な生活環境の整備について、旧八日市場市と旧野栄町でどのような格差があると認識しているか。

また、当面する格差の解消について、合併特例債が使える事業と使えない事業があります。

主要な生活環境の整備について、旧八日市場市と旧野栄町でどのような格差があると認識しているか。

また、当面する格差の解消について、合併特例債が使える事業と使えない事業があります。

主要な生活環境の整備について、旧八日市場市と旧野栄町でどのような格差があると認識しているか。

また、当面する格差の解消について、合併特例債が使える事業と使えない事業があります。



後を絶たない不法投棄